

授業科目名 (英文名)	理科指導法 (Science Education II)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	3年次・前期
担当教員	天野 智博	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>学習指導要領を理解させ、理科を教えるのに必要な知識・指導力・心構え等を育成する。</p> <p>理科の学習指導案を作成し、模擬授業を行い、授業の進め方や教科指導力を育成する。</p> <p>理科教員としての必要な基礎・基本を身につけさせ、教員になる意欲を高める。</p>		
講義内容・授業計画	<p>現行（高校）および新（中・高校）の学習指導要領に基づいて、理科の教育目標や内容を理解させ、理科教員の資質を身につける。</p> <p>学習指導案・板書計画の作成や模擬授業等を通して生徒の実態に即した授業を行える実践力を身につける。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領及び関連法案等について。</p> <p>理科教員に必要な資質と心構えについて。</p> <p>第2回：理科及び各科目の教育目標と教育課程編成について。</p> <p>第3回：各単元の内容とその取扱いについて。</p> <p>第4回：各単元の評価規準の作成と指導内容の一体化について。</p> <p>第5回：思考力や判断力、表現力を育成する学習活動と他科目とも連携について。</p> <p>第6回：理科及び各科目の学習指導案の作成と板書計画について。</p> <p>第7回：理科及び各科目の学習指導案の作成と板書計画について。</p> <p>第8回：生徒が興味関心を持ち主体的に取り組む授業展開について。</p> <p>第9回：生徒の自主的主体的な活動（プレゼン、調べ学習等）について。</p> <p>第10回：観察実験を取り入れた学習活動の展開と模擬授業について。</p> <p>第11回：各単元の導入の段階における授業展開と模擬授業について。</p> <p>第12回：各単元の展開やまとめの段階における授業展開と模擬授業について。</p> <p>第13回：模擬授業・板書計画の振り返り、改善点について。</p> <p>第14回：模擬授業・板書計画の振り返り、改善点について。</p> <p>第15回：西はりま天文台公園での実習。（新型コロナウイルス感染状況によって変更することがある）</p> <p>定期試験はレポート</p>		
テキスト	<p>中学校学習指導要領解説理科編、高等学校学習指導要領解説理科編、理数編 中学校理科教科書、高等学校理科の各科目の教科書、担当者が作成する資料 (各学習指導要領、教科書は大学生協で販売)</p>		
参考文献	<p>文部科学省の理科教育に関連する文書、各都道府県の理科教育に関連する文書、日本理科教育学会誌</p>		
成績評価の基準・方法	<p>定期テストに代わるレポート（30%）、毎時の課題レポート（40%）、模擬授業（30%）</p> <p>毎時の課題レポートの比重が大きいため必ず提出すること。</p>		
履修上の注意・履修要件	<p>中学校、高等学校理科の教員を志望している者で、課題レポートや模擬授業に意欲的に取り組むこと。欠席すると課題レポートが提出できませんので、該当回の点数はゼロになります。欠席をしない。</p> <p>《新型コロナウイルス感染に伴う特別措置に基づく遠隔授業》</p> <p>・当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境（PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境）が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</p>		

実践的教育	高等学校の現場で理科教員として35年間の指導経験のある教員が、その経験を活かして、理科教員として必要な資質能力や心構え、および学習指導案の作成の仕方や授業の進め方について講義する。
備考	